



みつや



Vol.271

2021. 10



表紙写真：対空実射訓練

対空実射訓練

旅団は8月下旬、佐多対空射撃場（鹿児島）において、12.7mm重機関銃の対空実射訓練を行い、対空戦闘能力の練度向上を図りました。



地上射撃



車上射撃

演習場整備

旅団は9月初旬から中旬にかけて、日本原（岡山）、原村（広島）、むつみ（山口）のそれぞれの演習場を整備し、機能の維持・向上を図りました。



斜面の木を伐採し、弾着地を整備



重機を駆使し開地



幹線道路を整備



グレーダで荒れた道路を整備



時間を有効活用し救急法の訓練



美味しい料理をお届け



不調になった器材を整備



新型コロナ対策で自動販売機も消毒

女子サッカー なでしこリーグ第1部 音楽演奏支援

第13音楽隊は9月4日（土）、広島広域公園第一球技場において開催されたアンジュヴィオレ広島と大和シルフィード戦において、選手に対する激励演奏を行いました。



YMCAなど2曲を演奏

百万一心



「心の持ちよう」

第13特科隊長

さかい けんいち

坂井 健一 1佐

以前購読していた読売新聞に「人生案内」という読者の悩みに各界の有識者が回答するコーナーがあった（今もある）。仕事、家族、恋や病気等様々な悩みを抱える人々の投稿に対して割り当てられた回答者が各々の切り口で鮮やかに指南する。このコーナーでは「心の持ちようを教えてください」という言い回しが頻出する。「なんとかしてください」という依頼にならないのは、簡単に解決できないほど複雑な問題だから悩んでいるのであって、苦しい状況だが心の安息だけでも得たいから、自分自身の物の考え方、状況の捉え方或いは自分自身の納得のさせ方を指南してほしい、と考える日本人らしい奥ゆかしさ故であると思う。心の持ちようの指南を受けたい投稿者の基本姿勢は「人を変えるのではなく自分を変える」であり、このプラス思考がとても気に入って当時毎日楽しみにして読んでいた。

ご存じの方もいるかもしれないが「関心の輪と影響の輪」も基本的に同じで、娯楽に興じても何かに影響を与えることはできず束の間の快樂を得るだけで何の進展もないが、自らの意志で自分を変えることは容易でありそれができれば自分自身が成長し充実した人生を送ることができるという考え方だ。と言いつつも、心の持ちようを変えることは実際は容易ではない。心の持ちようを変えるということは、自分の考え方や行動を変えるということ、自分の知らないことを学ぶこと、未経験の物事にチャレンジすること、そして長年染みついた習慣を強制的に変えること等と同義であり、特に頭が固くなった年寄りには負担とストレスが大である。私は年寄りに片足を突っ込んでいるがまだまだ現役、心の持ちようを変えることを意識して日々心掛け、ゆっくりだが成長する自分と益々充実する職務を日々楽しんでいる。

三矢の訓え



「失敗から学ぶこと」

第13特科隊

最先任上級曹長

しらつち かおる

白土 薫 准尉

皆さんは、訓練等で失敗をしたとき、嫌になったり諦めたりしていませんか？

私は、「失敗は成功するために神様が与えてくれた試練」だと受け止め、失敗というピンチから成功するためのチャンスに繋げてきました。

かの有名な、マイクロソフトの創業者、ビル・ゲイツは「成功を祝うのはいいが、もっと重要なのは、失敗から学ぶことだ」とも言っています。私はこの言葉に感銘を受け、失敗する度に何を学び、どのように考えれば成功に繋がるのか自問自答するように心掛けています。

北海道勤務の時、測量競技会に参加しました。「競技会優勝」を目的に昼夜間の厳しい訓練や仲間と積み上げた努力、そして必ず勝つという強い気持ちが次第に大きくなりました。競技会当日、作業開始とともに、ポールとミラーを設置する重要な役割を担っていた私は、練習よりもはるかに速い速度で演習場を走り、班内の作業も速くこの調子でいけば優勝を狙えると確信しました。ところが、測量作業の効率化を考えるあまり、「もっと早く、短縮できるところはないかと」焦りが出てしまいその結果、冷静さを失い作業中に設置するはずのミラーを付け忘れ作業をやり直したため時間が逆にかかってしまい、わずかな時間差で準優勝になってしまいました。折角仲間と一生懸命努力してきたのに一度の失敗で非常に嫌な気持ちになり、このまま訓練を続けていく気力も諦めかけていましたが、結果として、精度では圧倒的な成績を収め、大隊全隊員から激励を受けることができ、安堵する気持ちがありホッとしました。そして、自分の失敗を冷静に振り返ってみました。私は、凄くせっちな性格で「兎に角早く終わらせたい」と思う気持ちが強く、測量作業にとって極めて重要な「点検」という基礎動作をやったつもりになっていたことに気づきました。せっちな自分の性格からくる焦りが優勝という願望と相まって、冷静に行動することができなくなるということに気づき「スピード重視の測量作業」から「少し遅れても確実な点検を実施する測量作業」に発想を転換しました。班員同士の作業結節時の点検確認の声掛け、そして自分自身の気持ちを落ち着かせるため、自分のとった行動にも声を出して確認をしました。点検実施時の声掛けは、点検項目及び不安事項に対し、班員の多くの目で見える点検に繋がり、聴覚を使うことにより点検箇所をより注視する結果となり心に余裕が生まれ、そのため焦る気持ちを抑え想像以上に冷静になれることを学びました。

そしてもっと大きな成果は、優勝することを最大の目的で一生懸命努力してきましたが、優勝することは目的ではなく単なる目標であり、競技会の真の目的は練成（失敗）を通じ自分自身の弱点を克服し有事、真に役だつ陸曹としての戦技能力の向上であることも学びました。

失敗をしたとき、嫌になったり、諦めたい気持ちになると思いますが、失敗した時「チャンスがきた」と思い、逆境（失敗）にはそれ相応の成功の種が隠されているので、諦めないでそれを探しだして下さい。諦めなければ必ず学びがあり、それが成長に繋がります。



第13飛行隊

あべ てつなり
阿部 鉄也 3曹

阿部3曹は平成27年度に入隊し、令和2年8月、関東補給処航空部（霞ヶ浦）から異動し、我が第13飛行隊の一員となりました。愛すべきキャラクターによって、飛行隊になくてはならない、ムードメーカー的存在として日々頑張っています。

Q1 自衛隊に入隊したきっかけは？

「大空のサムライ」という本を読んで航空機に憧れを抱いたからです。

Q2 趣味・休日の過ごし方は何ですか？

趣味はPCゲーム、休日は温泉巡りで日々の疲れを癒しています。

Q3 これだけは誰にも負けないことは？

学生時代（カヌー部でのカヤック操作）の経験を活かした体幹の強さです。

Q4 今後の目標は？

航空機整備士としての技術を向上させることと、悔いを残さぬように生きることです。



山口県下関地区で実施された防災訓練

「自衛隊OBの自治体における 防災・危機管理担当について」

山口県隊友会下関支部長

まつむら

松村

やすし

靖

皆さんがお住まいの県や市町村に防災・危機管理担当の自衛隊OBがおられますか？近年では採用する自治体も増えていると思いますが、そもそも何が期待されているのでしょうか。一般的には防災や国民保護に関する実用的な知識、行政職の方々とは異なる発想やものの見方ということでしょうか、具体的には、在職中の経験値及び自衛隊とのパイプ役でしょう。しかし特別なことをしなくても、「災害派遣の3要素が整えば自衛隊は出動することになっているはず」、と思う方がいるかも知れません。自治体の側も同様で、自衛隊に限らず、他機関との特別な調整は不要、と考える自治体も少なくないようです。ですが過去の災害で「失敗した」「間に合わなかった」ことの原因では、十分な調整や訓練を行ってこなかったため、あと一歩、あと一人に手が届かなかった、という話を聞きます。そうならないためには、日頃から情報交換や訓練を通じ、平時から互いをよく理解する必要があります。

また、陸海空や方面、総監部等の違い等もありますが、そのような差異は市民からすれば知ったことではありません。例えば担当部隊が定められていても、災害発生場所に所在していなければ、最寄りの部隊が初動対応にあたることも考えねばなりません。

このための円滑な関係性を築くためには、現職時代のタテ・ヨコの繋がりが退職後も有効なのは言うまでもありませんが、自分はさらに隊友会などを利用し、足がかりにして自分の自治体に関係しそうな部隊などに片っ端から突撃し、関係性を構築しています。国交省、海保、気象台、警察、消防などの機関も同様です。「あそこの自治体には、うるさいのがあるなあ。」と思われたら、私の勝ちです。

写真：「【訓練】フェリーから救出した怪我人を運ぶ47普連」は下関地区で実施された山口県防災訓練の一コマ。山口県隊友会は「けが人役」として一部協力いたしました。